

4-1-18 看護部（保育士を含む）

1. 概要、特色

平成 18 年度の看護部は、4 月 1 日看護師（助産師含む）定数 4 名が削減となり 435 名、保育士 6 名、看護助手 14 名（非常勤含む）でスタートしたが、10 月 1 日で看護師 6 名の増員があり定数 441 名となった。プラスとなった 2 名は手術件数増加に伴う体制強化のために手術室に配置し 23 名から 25 名とした。看護単位は昨年と変わらず 17 単位で、看護師長 18 名（医療安全管理者、研究所併任者を含む）、副看護師長 40 名である。専門、認定看護師は、小児救急認定看護師 1 名が認定され、小児看護専門看護師 1 名、感染管理認定看護師 2 名、がん化学療法認定看護師 1 名となり、それぞれの特定看護分野で活躍している。また、遺伝カウンセリングナースが遺伝カウンセラーとして学会認定された。

平成 18 年度診療報酬改訂で、入院基本料の看護師配置 10 : 1 が実に 12 年ぶりに見直され急性期入院医療の看護を手厚くするため看護配置 7 : 1 が新設となった。成育医療センターでは、増員することなく 4 月 1 日より 7 : 1 入院基本料を 5 病棟で取得した。入院基本料 7 : 1 では、看護必要度により看護師は傾斜配置が可能となっている。看護必要度を適切に評価できるため、プロジェクトを立ち上げ平成 19 年 3 月に看護職員全員に研修を実施した。まだまだ精度を高めるため研修の継続が必要であるとともに、次期電子カルテシステムに、看護必要度を入れる準備を進める必要がある。現在成育医療センターは診療報酬上では、入院基本料 7 : 1（11 東病棟、6 東病棟、6 西病棟、4 東一般病床、4 西一般病床）、小児入院医療管理料 1（9 東病棟、9 西病棟、8 東病棟、8 西病棟、7 東病棟、7 西病棟）、小児入院医療管理料 2（10 東病棟、10 西病棟）、ICU 加算 10 床、NICU 加算 15 床で運営している。

平成 18 年度の看護部目標は、1. 看護サービスの質を高め患者・家族の満足を得る。2. リスクを回避し安全な看護を提供する。3. 専門性のある高い看護実践能力のある人材を育成する。4. チーム医療を円滑にし看護の機能・役割を果たす。5. 独立行政法人化を見据えた病院経営への参画の 5 つの目標をあげ、各病棟、各委員会の活動を中心に取り組んだ。平成 18 年度事業計画の目標患者数は、403.8 名であったが、実績 402.8 名でほぼ達成した。春・夏・冬の休み期間中は、入院が多く 460 名を越す日もあり、救急患者の入院を制限するか否かといった心配をしながらのベットコントロールであった。看護師長相互における連携、協力のすばらしいチームプレイで病院経営に寄与できたと考える。

また、臨床の忙しい状況にありながら看護研究も積極的に取り組み院内看護研究発表会に 18 題、院外の学会に 31 題の発表を行なった。年々成育医療センターならではの研究業績が多く、その成果を情報発信できている。対外的には、5 月 21 日第 24 回東京母性衛生学会、7 月 29 日～30 日第 16 回日本小児看護学会学術集会を担当し盛会のうち無事終了した。

2. 研究活動

2.1 院内研究

- 1) 藤原 聡子：看護の死に向き合う家族への看護
～ 家族が子どもの蘇生を望まない事例～ 2007.2.13
- 2) 佐藤ゆかり：手術を受ける思春期早期患者の意思表示のための看護（中間報告）
2007.2.13
- 3) 森 愛子：回復室での小児の訴え実態調査をふまえた発達段階別の看護
2007.2.13
- 4) 水田由希子：PICU における筋弛緩剤投与患者の Eye Care に関する研究
～ 第 1 報 現行の Eye Care を評価して～ 2007.2.13

- 5) 山田圭之介：PICUにおける筋弛緩剤投与患者のEye Careに関する研究
～第2報 併用のCareの有用性の検討～ 2007.2.13
- 6) 上村 文子：PICUにおける筋弛緩剤投与患者のEye Careに関する研究
～第3報 Manualの有効性の検討～ 2007.2.13
- 7) 青木みやび：人工呼吸器装着患者の退院フォローチャートの作成 2007.2.27
- 8) 船倉誠二郎：挿管チューブ固定用バンドの圧力が及ぼす後頭部への影響 2007.2.27
- 9) 新田 美里：脊髄損傷をもつ初産婦への育児支援～A氏の事例を通して～
2007.2.27
- 10) 巧 清香：眼科手術を受ける児へのプレパレーションプログラム 2007.2.27
- 11) 小野寺香織：病棟看護師の手指衛生に関する実態調査と問題点の改善策 2007.2.27
- 12) 梶 早苗：アロマセラピーを用いた排便コントロールの検討
～泌尿器科手術後、便秘傾向を示す患者に対する腹部マッサージと温
電法～ 2007.2.27
- 13) 石井 綾奈：PICUにおける看護師の職務満足度の現状把握 2007.3.6
- 14) 山口 恵瑞：NICUにおける母児初回面会時の母親への援助 2007.3.6
- 15) 飯島 洋子：緊急入院した児の母親への精神的援助 2007.3.6
- 16) 西村恵理奈：小児の吸入療法における小児の行動パターンの実態調査 2007.3.6
- 17) 神庭未歩子：思春期の神経性食欲不振症患児の抱える入院中の思いと退院指導への
アプローチ～1.急性期における看護～ 2007.3.6
- 18) 薄井千恵子：化学療法の幼児期から学童期の児への内服介助に対する看護師の認識
2007.3.6

2.2 学会発表

- 1) 佐伯 昭子：双胎1児が無脳症児と出生診断された母親の事例にかかわって
第24回東京母性衛生学会(国立成育医療センター) 2006.5.21
- 2) 松成 紀子：長期挿管児をもつ母の気持ちの変化と看護師の関わり
第24回東京母性衛生学会(国立成育医療センター) 2006.5.21
- 3) 山口 麻里：予期せぬ胎児診断を受けた母の心情と児を受け入れるまでの課程につ
いて
第24回東京母性衛生学会(国立成育医療センター) 2006.5.21
- 4) 三ツ屋 妙：高齢初産婦への保健指導を考える
～国立成育医療センターにおける妊産婦の傾向と分析から～
第24回東京母性衛生学会(国立成育医療センター) 2006.5.21
- 5) 吉川 千草：不妊治療後の妊娠・分娩経過の傾向と分析
～35歳以上と35歳未満の初産婦を比較して～
第24回東京母性衛生学会(国立成育医療センター) 2006.5.21
- 6) 相原 未央：不妊症患者に対する精神的援助について
～不妊クラスのある方の文献的検討～
第24回東京母性衛生学会(国立成育医療センター) 2006.5.21
- 7) 鈴木 聡子：35歳以上の高齢産婦の産後における母乳率と育児傾向の分析
第24回東京母性衛生学会(国立成育医療センター) 2006.5.21
- 8) 三浦 祥子：NICU感染対策 MRSA保菌率低下への取り組み
第24回東京母性衛生学会(国立成育医療センター) 2006.5.21
- 9) 三原喜美恵：ハンター症候群の連鎖解析による保因者診断に伴う遺伝カウンセリング
第31回日本遺伝カウンセリング学会学術集会(大阪) 2006.5.26
- 10) 島田 知子：当院における感染管理認定看護師の役割
第8回日本医療マネジメント学会(横浜) 2006.6.17
- 11) 目崎 正子：KYTを医療安全研修に取り入れて

- 第 8 回日本医療マネジメント学会（横浜）2006.6.17
- 12) 本澤 侑奈：先天性の心疾患をもつ青年期の患者就職・就労に対する思い
第 42 回小児循環器学会学術集会(名古屋) 2006.7.13~7.15
- 13) 栗岡 幹子：慢性心疾患をもつ子どもの主体性をはぐくむ関わり
～思春期から青年期に焦点をあてて～
第 42 回小児循環器学会学術集会(名古屋) 2006.7.13~7.15
- 14) 斉藤 就美：就学準備のための指導プログラムにおける集団教育の検討
第 12 回小児思春期糖尿病研究会(大阪) 2006.7.22
- 15) 佐藤 麻衣：入院している子どもときょうだいに対する母親への気がかりへの対処
行動
日本小児看護学会第 16 回学術集会(横浜) 2006.7.29
- 16) 工藤真奈美：チャイルド・マルトリートメントの早期発見に関する調査研究
日本小児看護学会第 16 回学術集会(横浜) 2006.7.29
- 17) 丸田千香子：乳幼児の中心静脈カテーテルのチューブトラブル防止に関する検討
～成長発達を考慮し、伸縮性チューブを使用して～
日本小児看護学会第 16 回学術集会(横浜) 2006.7.30
- 18) 御厨 晶子：膀胱拡大術を受けるキャリアオーバー患者の標準看護計画
日本小児看護学会第 16 回学術集会(横浜) 2006.7.30
- 19) 井原 仁子：医療処置を要する児の母の気持ちの変化と看護
～在宅療養移行への決意とその実現～
日本小児看護学会第 16 回学術集会(横浜) 2006.7.30
- 20) 廣田久美子：発熱症状で救急センターに受診する患者・家族の受診行動の分析
日本小児看護学会第 16 回学術集会(横浜) 2006.7.30
- 21) 齋藤 就美：患児と家族が安心して就学準備ができるための指導プログラムの実際
～自己管理への関心を高める支援のあり方～
日本小児看護学会第 16 回学術集会(横浜) 2006.7.30.
- 22) 伊藤 龍子：長期入院している子どもと家族への復学に向けてのケア
～看護師の子どもと家族への復学に向けてのケアの効果～
日本小児看護学会第 16 回学術集会(横浜) 2006.7.30
- 23) 石川 陽子：対話的關係に基づいた慢性疾患を抱える思春期にある患者の看護
第 37 回日本看護学会～小児看護～(広島)2006.9.21
- 24) 三原喜美恵：母体血清マーカー検査に関する遺伝カウンセリングの有用性について
第 51 回日本人類遺伝学会学術集会(鳥取) 2006.10.18~10.20
- 25) 鈴木佳奈子：TTTS に対し FLP を受ける妊婦の標準看護計画
第 47 回日本母性衛生学会(名古屋)2006.11.9
- 26) 李 紅蓮：双胎輸血症候群に対して胎盤血管凝固術を受ける妊婦の看護
第 47 回日本母性衛生学会(名古屋)2006.11.10.
- 27) 森 千春：大学生におけるボディイメージとダイエットの関連性
～男子学生と女子学生の比較～
第 47 回日本母性衛生学会(名古屋)2006.11.10.
- 28) 水田由希子：PICU における筋弛緩剤投与患者の Eye Care に関する研究
～第 1 報 現行の Eye Care を評価して～
第 34 回日本集中治療医学会学術集会(神戸)2007.3.3
- 29) 山田圭之介：PICU における筋弛緩剤投与患者の Eye Care に関する研究
～第 2 報 併用の Care の有用性の検討～
第 34 回日本集中治療医学会学術集会(神戸)2007.3.3
- 30) 上村 文子：PICU における筋弛緩剤投与患者の Eye Care に関する研究
～第 3 報 Manual の有効性の検討～

- 第 34 回日本集中治療医学会学術集会（神戸）2007.3.3
31) 中村 瑞穂：救急センターでの乳幼児の事故防止指導への取り組み
第 20 回日本小児救急医学会(茨城) 2006.6.16

2.3 論文発表

- 1) 石川 陽子：対話的關係に基づいた慢性疾患を抱える思春期にある患者の看護
第 37 回日本看護学会論文集 - 小児看護 - 2006. P.125 ~ 127
- 2) 伊藤 龍子：特集ヒューマン・ケア. 小児慢性特定疾患患者の療養環境の現状と課題 保健の科学. 2006. 48(7):487-491.
- 3) 伊藤 龍子：難病の子どもたちへの支援. さまざまな施設間の連携. 小児看護.
2007. 30(1):36-41.
- 4) 今井 敦子：小児総合医療施設における新人看護職員の看護技術習得状況の実態調査報告 第二報
第 37 回日本看護協会論文集 看護管理 2006 P282 ~ 284

2.4 研究報告書

- 1) 伊藤 龍子：清水直樹，上村克徳，白石裕子，林幸子，西海真理. 小児救急医療における看護師のトリアージ教育評価. 平成 18 年度日本小児看護学会委託研究「小児救急医療における看護師のトリアージ教育評価に関する研究」報告書. 2007.
- 2) 伊藤 龍子：羽鳥文磨，中川聡，阪井裕一. 小児集中治療室のためのガイドラインとケアレベル〔訳文〕. 平成 18 年度厚生労働科学研究「小児医療における安全管理指針の策定に関する研究」報告書. 2007.

3. 研修

3.1 院外研修

- 1) 厚生労働省
 - (1) 幹部看護師管理 研修：2006.7.19 ~ 8.1 諸橋 容子
 - (2) 関東信越地区保健師助産師看護師等実習指導者講習会：2006.6.1 ~ 7.25
竹内 理恵
- 2) 機構本部ブロック主催
 - (1) 医療安全対策講習会：2006.10.4 ~ 10.6、2006.10.11 ~ 10.12 榎原 恵子
 - (2) 副看護師長研修会：2006.12.7 ~ 12.8、12.11 ~ 12.13 目崎 正子、目黒 香織
 - (3) 管理者(技師長・看護師長等)研修会：2007.2.26 ~ 2.27 浅田 美津子
- 3) 日本看護協会
 - (1) 実習指導者研修（東京都ナースプラザ）：
第 1 回 2006.5.9 ~ 2006.7 志村 牧子
第 2 回 2006.7.4 ~ 8.1，2006.8.25 ~ 9.22 瀬戸口 志保美
第 3 回 2006.10.10 ~ 12.6 奥山 亜紀子
 - (2) 認定看護管理者制度セカンドレベル教育課程：2006.6.5 ~ 7.19 早坂 素子
 - (3) 臓器移植コーディネーター養成研修：2006.12.11 ~ 12.15 上野 真理子、
杉澤 由香里
- 4) その他
 - (1) がん診療及び循環器診療に従事する医師等の研修（国立循環器病センター）：
2006.7.3 ~ 7.14 丸田 千香子
 - (2) 保健師助産師看護師等実習指導者講習会（東京医療センター）：
2006.9.6 ~ 9.27、2006.10.16 ~ 11.2、2006.11.27 ~ 12.12 佐藤 礼
 - (3) 保健師助産師看護師等実習指導者講習会（国立国際医療センター）：
2006.11.21 ~ 12.19、2007.1.15 ~ 2.9 荒武 亜紀、伊東 明子、小林 良子、月
足 瞳

- (4) 認定看護師教育課程「感染管理コース」: 2006.10.2~2007.3.23 三浦 祥子
 (5) 実習指導者講習会フォローアップ研修(東京医療センター): 2006.6.26
 加瀬 久美子
 (6) 短期看護研修「院内教育」: 2006.8.9~8.11 今井 敦子
 (7) 短期看護研修「がん化学療法看護」2006.8.30~9.1 大谷 究
 (8) 短期看護研修「循環器(心不全)」2006.11.13~11.17 御厨 晶子
 (9) 認定看護師教育課程フォローアップ研修(国立看護大学校)
 がん化学療法: 2006.11.27 釘持 瞳
 感染管理: 2006.11.27 島田 知子、菅原 美絵

3.2 院内研修

コース名	対象者	研修テーマ	日程	研修時間	研修者数	内容
実務研修	1年目	新採用者オリエンテーション	4月	6日	50	センターの概要・倫理・安全管理・医療機器技術・電子カルテ他
		人工呼吸器装着中の看護	5月	2.5時間	46	呼吸器管理と装着中の患者管理と看護が理解できる。
		病院経営について	5月	1時間	46	コスト意識を持つことの必要性を理解できる(中村昌夫会計課長補佐)
		成長発達段階の理解	6月	3.5時間	46	講義: 成長発達段階をふまえた対象の理 (国立看護大学校小児看護学講師 仁尾り先生)
		メンバーシップとコミュニケーション	9月	3.5時間	44	体験学習 グループワーク: メンバーと役割を通してのコミュニケーションの重要 講義: メンバーシップとコミュニケーションについて(田中弘子看護師長)
		1年目の看護の振り返り	H19 2月		46	レポート
	2年目	看護過程の展開と事例検討1	9月	3.5時間	45	講義: 看護過程の展開と事例研究(聖路加看護大学大学小児看護学講師: 小野智美先生)
		看護過程の展開と事例検討2	11月	3.5時間	45	事例発表会(45事例) 講評: 聖路加看護大学大学小児看護学講師: 小野智美先生
		メンバーシップ	7月	3.5時間	46	体験学習: 単方向コミュニケーションと双方向コミュニケーション KJ法、グループワーク: チーム医療の一員としてメンバーシップを発揮するために必要なこと 講義: メンバーシップ(切手 純代看護師長) 事前課題
	3年目	リーダーシップ	6月	3.5時間	49	体験学習: 責任共有 グループワーク 講義: リーダーシップを発揮するために(野口美穂子看護師長) 事前課題・事後課題

		インフォームド・コンセント - プリレーションについて	10月	3.5 時間	49	講義：インフォームドコンセントとは(剣持瞳がん化学療法認定看護師) グループワーク：事例検討 ロールプレイによる発表
実務 研修	4～5 年目 以上	プリセプターシップ 1	7月	3.5 時間	35	体験学習 事前課題をもとにグループワーク 講義：プリセプターシップについて(今井敦子副看護部長) 事前課題・事後課題
		プリセプターシップ 2	H.19 1月	3.5 時間	35	スピーチ 事前課題をもとにグループワーク 講義：しなやかなプリセプターを目指して(今井敦子副看護部長) 事後課題
		プリセプターシップ 3	H.19 2月	3.5 時間	37	グループワーク：このようなプリセプターになりたい 講義：プリセプターの役割(目黒香織副看護師長) ロールプレイ(2事例) 事前・事後課題
		実習指導におけるリスクマネジメント	6月	70分		講義：国立看護大学校小児看護学講師 仁尾かおり先生
		学生の実習指導の方法	10月	1.5 時間	37	講義：NHO 災害医療センター附属昭和の森看護学校教官：大城忠之先生
		実習指導者(次期指導者研修)	H.19 3月	3.5 時間	14	KJ法、グループワーク：学生が実習で学ぶこと 講義：学生理解・指導者の役割(工藤奈美子副看護師長) 事前・事後課題
		自己啓発	9月	1.5 時間		研修生 32 聴講生 52 講義：在宅ケアに関わる地域医療連携(小暮紀子医療社会事業専門員) 講義：在宅ケアに関わる看護のかかわり(小山陽子外来副看護師長)
実務 研修	6年 目以上	管理初級 1	10月	1.5 時間	32	講義：組織集団におけるマネジメント(諸橋容子看護師長) 事後レポート
	7年 目以上	管理初級 2	11月	1.5 時間	研修生 18 聴講生 65	講義：診療報酬における看護の評価(厚生労働省医政局国立病院課看護専門官：菊池幸子)
中間 管理者 研修	看護 副 看護 長 ・ 看護 師	看護必要度評価者編集	2月	3 時間	院内 71 院外 46	講義：北里大学東病院看護部長：田中彰子先生 演習 テスト

スキル コース	1年 目	救急時の看護	4月	3.5 時間	46	講義：救急蘇生について(清水直樹高度在宅医療科医長) 実演：夜勤帯想定 プレ・ポストテスト知識チェック
	2年 目	救急時の看護	5月	3.5 時間	47	講義：救急蘇生について(松本務小児期診療科医師) 実演：夜勤帯想定、一次・二次救命処置 プレ・ポストテスト知識チェック
	全職 員	小児救急医療の実際	6月	1.5 時間	105	講義：小児救急医療の実際(清水直樹高度在宅医療科医長)
看護研究	3年 目以上	看護研究のプロセス	4月	各3.5 時間	50	講義：看護研究プロセス(伊藤龍子研究所併任看護師長)
看護研究		看護研究実践	5月~ 3月			伊藤龍子先生による研究指導
医療安全 研修	1年 目	KYT基礎ラウンド 法 「身に付けよう指差し呼称」	6月	3.5 時間	45	講義：輸液に関するインシデント、インシデントを起こす要因、確実な確認行動の必要性(吉岡明美専任リスクマネージャー) KYT基礎ラウンド法、演習・グループワーク
	2年 目	KYT基礎ラウンド 法 「磨こう！危険予知能力を！」	10月	3.5 時間	45	講義：看護業務と法的責任(吉岡明美専任リスクマネージャー)、看護現場パトロール、KYT基礎ラウンド法、演習・グループワーク
	3年 目	KYT基礎ラウンド 法、作業指示 STK 訓練	11月	3.5 時間	50	KYT基礎ラウンド法、作業指示 STK 訓練、演習・グループワーク
	4年 目以上	インシデントレポート KYT	1月	1.5 時間	60	KYT とンシデントレポート KYT について グループワーク
看護記録 研修	4年 目以上	看護記録の質の向上	2月 3月	各1.5 時間	160 131	講義：(北里大学病院看護科長：小越明美先生)

リフレッシュ研修	全看護職員	アロマセラピー-	H.19 2月	1 時間	70	講義:オリエンタルアロマセラピー-カレッジ校長:小山めぐみ先生
		患者満足につながる対応について	H.19 2月	1.5 時間	100	講義:株)ベターコミュニケーション:藤田重昭先生
トピックス研修		病院経営について	6月	1.5 時間	46	講義:佐々木 昌弘政策医療企画課長
		看護助手の役割と接遇について	6月	1時間	14	講義:看護助手の役割と助手業務の意義(野口美穂子看護師長) グループワーク「看護助手の役割とは何か」
看護助手研修		安全と感染防止	10月	1 時間	14	講義:接遇について(須々木美奈看護師長) 自己チェック
		自己の健康管理	2月	1 時間	14	講義:コミュニケーションと守秘義務(切手純代看護師長) グループワーク:「日頃守秘義務の点から気をつけていること」事例検討」
		危機的状況にある患者・家族への看護介入	6月	1.5 時間	研修生 84 聴講生 35	講義:厚生労働省雇用均等児童家庭局総務課虐待防止対策室保健指導専門官:来生奈巳子先生
専門研修	基礎	社会問題の背景と看護のかかわり	10月	1.5 時間	研修生 57 聴講生 42	講義:笠原麻里育児診療科医長
		不妊治療現場における看護者の役割	10月	1.5 時間	研修生 56 聴講生 47	講義:細野公子 11 階東病棟看護師
	生殖	ハイリスク妊婦の理解と看護のかかわり	11月	1.5 時間	研修生 48 聴講生 39	講義:鈴木佳奈子国立看護大学校臨床教員
	周産	家族の持つ問題野明確化と看護介入~ボランティアの目を痛して見る子どもの気持ち・親の気持ち~	11月	1.5 時間	研修生 55 聴講生 52	講義:神奈川こども医療センターボランティアコーディネーター:梶山祥子先生
	小児					

	終末期にある小児と家族への援助を考える～患者は死をどのように理解しているか～	12月	1.5時間	研修生 50 聴講生 40	講義：国立国際医療センター副看護部長：江口八千代先生
思春期	摂食障害の治療における多職種連携	H19 1月	1.5時間	研修生 40 聴講生 50	講義：東京都医学研究機構東京都精神医学総合研究所医学博士：西園マー八文先生
成人	キャリアオーバー患者の自立に向けての支援	H19 2月	1.5時間	研修生 37 聴講生 69	講義：国立看護大学校小児看護学講師：仁尾かおり先生

3.3 研修受け入れ

- 1) 6東病棟 : 2006年6月1日～2006年2月23日 静岡県立こども病院
助産師2名
- 2) ICU病棟 : 2006年6月1日～2006年2月23日 静岡県立こども病院
看護師2名
- 3) アレルギー外来・8東病棟 : 2006年11月1日～12月1日 市立釧路総合病院
看護師1名
- 4) 救急センター : 2006年9月25日～10月27日 日本看護協会認定看護師教育専門課程小児救急学科3名

3.4 看護学生・助産学生受け入れ

- 1) 独立行政法人国立病院機構災害医療センター附属昭和の森看護学校 54名
小児看護学 第3学年：2006年5月9日～7月14日 54名
- 2) 独立行政法人国立病院機構東京医療センター附属東が丘看護助産学校 99名
看護学科
小児看護学 第3学年：2006年5月15日～11月30日 40名
第2学年：2006年12月4日～2007年3月2日 11名
母性看護学 第3学年：2006年5月8日～7月21日 13名
助産学科 2006年7月3日～11月24日 35名
- 3) 国立看護大学校 249名
政策医療看護学 4年次：2006年6月12日～9月29日 64名
小児看護学 3年次：2006年11月13日～2007年3月2日 101名
母性看護学 3年次：2006年11月13日～2007年2月2日 74名
助産学 4年次：2006年8月28日～10月13日 10名

4. 社会的活動

4.1 講師派遣

- 1) 三原喜美恵：国立看護大学校（大講義室）2006.4.20、「高度先駆的医療看護」、講師
- 2) 阿部 聖世：第24回東京母性衛生学会(国立成育医療センター)、2006.5.21、「妊婦指導・教育」、シンポジスト
- 3) 西海 真理：国立看護大学校（301教室）2006.5.23「小児看護援助論」、講師
- 4) 野口美穂子：国立看護大学校、2006.6.2、「高度先駆的医療看護」、講師
- 5) 伊藤 龍子：自治医科大学大学院看護学研究科、2006.6.16、2006.6.23、講師
- 6) 小山 陽子：TVシンポジウム、2006.6.17、「小児の在宅自己注射を考える」、演者
- 7) 西海 真理：第20回日本小児救急医学会（つくば国際会議場）：2006.6.17、シン

ポジスト

- 8) 栗岡 幹子：第 42 回小児循環器学会（名古屋国際会議場）：2006.7.14～7.15、看護セッション話題提供者
- 9) 八代 尚美：第 42 回小児循環器学会（名古屋国際会議場）：2006.7.13～7.15、「先天性心疾患患者の QOL 向上ををを目指した安全な心臓手術（看護におけるリスクマネジメント：モニター事故を防ぐためには）」、シンポジスト
- 10) 平良 七恵：日本小児看護学会第 16 回学術集会（パシフィコ横浜）、2006.7.29、「育ちゆく子どもと共に～“ちゃん”から“ ”さんへ～」、シンポジスト
- 11) 西海 真理：日本小児看護学会第 16 回学術集会（パシフィコ横浜）、2006.7.30、「小児救急看護認定看護師の誕生と今後の課題」、ファシリテーター
- 12) 三原喜美恵：第 9 回家族性腫瘍カウンセラー養成セミナー（兵庫医科大学）2006.8.24～8.27、ファシリテーター
- 13) 西海 真理：日本看護協会認定看護師教育専門課程小児救急学科（日本看護協会看護研修学校）2006.8.23～8.24、「子ども・家族への接近方法」、講師
- 14) 菅原 美絵：社会福祉法人慈生会ナザレットの家院内研修会（中野区ナザレットの家）2006.9.27、「感染予防について」、講師
- 15) 西海 真理：関東信越ブロック小児救急研修会（NHO 下志津病院）2006.10.5、「小児救急におけるトリアージ」、講師
- 16) 清水 裕子：第 6 回 CRC と臨床試験のあり方を考える会議 2006in 大宮（大宮ソニックシティ）2006.10.7、「CRC の専門性を考える：小児科領域～小児治験の現状と CRC への期待～」、シンポジスト
- 17) 林 幸子：中国四国ブロック管内小児救急研修会（NHO 岡山医療センター）2006.10「小児救急看護認定看護師の誕生と今後の課題」、講師
- 18) 吉岡 明美：周産期医療研修会（日本子ども家庭総合研究所研修室）、2006.11.7、「リスクマネジメント」、講師
- 19) 早坂 素子：NHO 災害医療センター附属昭和の森看護学校、2006.11.10・11.24、「小児看護学・対象の看護」、講師
- 20) 劔持 瞳：NHO 災害医療センター附属昭和の森看護学校、2006.11.9・11.24・11.29、「小児看護学・対象の看護」、講師
- 21) 西海 真理：埼玉県看護協会（埼玉地域看護研修センター）2006.11.24、「小児看護～小児看護の専門性～」、講師
- 22) 三原喜美恵：助産師教育指導講習会（東京都社会福祉保健医療研修センター）、2006.12.15、「遺伝看護の実際～事例からのアプローチ～」、講師
- 23) 三原喜美恵：「助産師教育指導講習会」（日本助産師会東京都支部）「遺伝看護の実際～事例からのアプローチ～」 2006.12.15、2007.1.27、講師

4.2 投稿

- 1) 阿部 聖世：「特集 妊産婦と褥婦への看護と支援～不妊治療後の妊婦～」 周産期医学 2006.5
- 2) 細野 公子、田中 弘子：「女性総合外来の実際と看護実践」 外来看護新時代 2006.7.15 日本総合研究所
- 3) 林 幸子：第 1 期小児救急看護認定看護師からのメッセージエマージェンシー・ケア 2006.10 メディカ出版
- 4) 菅原 美絵：「手洗いの方法」小児科診療 2006.12.1 第 69 巻-12 号 診断と治療社
- 5) 伊藤知亜紀・諸橋容子：「親へのアドバイス・指導」 小児看護 2006.12 へるす出版

- 6) 八代 尚美 :「看護におけるリスクマネジメントーモニター事故を防ぐためにはー」
小児循環器学会雑誌
- 7) 宮澤 佳子 :「小児救急トリアージ」 平成 18 年看護白書 日本看護協会出版社
- 8) 林 幸子 :連載「こどもたちへのアプローチー小児救急看護の現場からー」 看護の科学 2007.1月号~12月号 ライフサポート社
- 9) 早坂 素子 :「小児領域におけるクリニカルパス・リスクマネジメント」 こどもケア 2006 2007.2.5 日総研
- 10) 早坂 素子 :「みてわかる新生児医療・看護の臨床手技 70」 ネオネイタルケア春期増刊号 2007.3 メディカ出版
- 11) 今井 敦子 :「患者満足度向上に向けた効果的な研修方法 <事例> 合同研修」 看護 2007.3 日本看護協会出版会
- 12) 林 幸子 :「小児救急看護「認定看護師」が教えるステップアップ方式による最新看護技術」 看護実践の科学 2007.3 看護の科学社

5. 保育士の活動

1. 概要

平成 18 年度の保育士定数は 4 月 1 日付で 6 名、保育活動は 7~9 階の小児 6 病棟の入院患児を対象に行った。今年度の保育係活動は、業務・行事・物品・研修(自己学習) 保育記録係に加え、新採用者に向け、院内教育の一環として新人教育プログラムを実施した。

保育活動は、日々の各病棟での保育活動の他に、年間行事を 5 回、パネルシアター・紙芝居・季節の制作など複数の保育士による設定保育(ぼけっと保育)を 21 回実施。その他、成育ボランティアの協力を得て、9 回のイベントを設けることができた。開院 5 年目をむかえ、幼児学童に加え、乳児・障害児およびその家族を含めて保育活動へ参加する、という保育環境が定着してきている。

保育業務では、昨年度から作成してきた保育手順に取り組み、保育マニュアル・医療保育技術マニュアルへと発展させた。また、保育士内での勉強会及び院内研修に加え、院外研修にも積極的に参加し専門的知識向上を図っていった。現在、平成 18 年度より開始された医療保育専門士認定制度の研修を 5 名受講中である。

2. 保育士の活動

2.1 年間行事

- 5 月 こいのぼり会
- 7 月 七夕会
- 10 月 ハロウィン会
- 12 月 クリスマス会
- 3 月 ひなまつり会

2.2 保育業務

- 4 月 新人指導開始
- 5 月 周産期病棟看護師 講師 「乳児の遊びについて」
保育手順作成「ねらい別」
- 6 月 医療保育技術マニュアル作成
- 9 月 保育記録マニュアル 準備開始
- 10 月 各係活動および新人指導の中間評価
- 12 月 保育手順作成「実践場面」
- 1 月 次期カルテシステムに向けての準備開始
勉強会 重症心身障害児の定義
- 2 月 勉強会 重症心身障害児の生活
- 3 月 勉強会 重症心身障害児の遊び

新人指導の評価・反省

2.3 見学・研修受け入れ

見学受け入れ保育対応4件。保育業務の説明と小児病棟の見学を中心に行った。

2.4 研究活動

【院外発表】

- 1) 平 真由美：保育の充実を目指して～保育手順作成を通して～
第10回日本医療保育学会 2006、8、26

【その他】

- 1) 高橋みゆき：医療保育専門士テキスト 保育の展開と記録・評価
電子カルテと保育記録
総括的評価とその記録
- 2) 林 典子：医療保育専門士テキスト 特別なニーズをもつ子どもの保育 被虐児
- 3) 加藤ゆみえ、高橋みゆき、平 真由美、林 典子、豊田江利子、小野鈴奈
『実践 医療保育「今 現場からの報告」 ～成育医療の充実を図る保育～』

2.5 院外研修

- 1) 日本医療保育学会関東研修会 2006年6月18日
- 2) 10回日本医療保育学会 2006年8月26・27日
- 3) 全国保育士協議会 関東信越支部研究・研修会 2006年9月2日
- 4) 児童指導員・保育士連絡協議会 2006年2月3日
- 5) 日本医療保育学会 医療保育専門士資格認定研修 2007年3月4日

2.6 社会的活動

- 1) 日本医療保育学会調査研究委員長 高橋みゆき
- 2) 日本医療保育学会調査研究活動 5名参加 2006年4月1日
- 3) 日本医療保育学会調査研究活動 6名参加 2006年5月13日
- 4) 日本医療保育学会調査研究活動 6名参加 2006年7月2日
- 5) 日本医療保育学会調査研究活動 6名参加 2008年2月17日